

連合救援ボランティア第20陣・気仙沼

頑張ろう！被災者のみなさん。

一歩ずつ、やるしかない

J R 総連から4名が参加した連合救援ボランティア第20陣(8月21~26日)は、気仙沼で活動をおこないました。

気仙沼湾の入口にあたる岩井崎では50人の地区住民のうち生き残ったのは5人。4階まで津波が襲った気仙沼向洋高校が見渡せる丘で、「五葉茶豆」を特産品にしたかったという住民の依頼で畑の瓦礫を撤去。また、気仙沼漁港の向い側にあたる農業用水池では、重油が混じった汚泥の除去作業をおこないました。



津波は想定されていた!?という標識。



丘から授業のできない校舎を臨む。



気仙沼市の小野寺建設部長らから激励を受けました。



瓦礫を運ぶ車列がいたるところに...



汚泥の悪臭が鼻を衝きます。



畑から大量のガラス片や食器、眼鏡、時計なども出てきます。



お伊勢浜海水浴場の民宿は全滅。



汚泥の悪臭が鼻を衝きます。



5ヵ月が過ぎても手付かずの市内。地盤沈下で、ガードレールも海に浸かっています。上陸した船もそのまま。



「がんばって畑やるから」と、お礼にアイス差し入れて頂きました。

